

## 第1回平成28年度外来種調査検討会議事概要

### 1 座長、座長代理の指名

座長は、互選により芹沢委員となった。

座長代理は、芹沢座長の指名により谷口委員となった。

### 2 議題1 外来種調査計画について

- ・資料2、資料3により外来種調査計画について説明した。(事務局)
- ・ハビコリハコベは、池の改修により消滅している(委員)。
- ・代わりにウチワゼニクサ(タテバチドメグサ)を調査対象とする。(合意事項)
- ・カミツキガメが愛知県内の名古屋近郊で2014年ごろから繁殖していると考えられる情報があり、調査対象とする。(合意事項)
- ・ナガエモウセンゴケとモウセンゴケは花期と生育場がずれているので、雑種はあまり考えにくい。各研究室からデータを集めて検討する必要がある。(委員)
- ・被害や影響を証明するよりは、影響のおそれのあるものを防ぐ観点から、広く危ないと思われるものを洗い出してほしい。(事務局)
- ・カミツキガメはこれから増えると考えられるので、データをとる必要がある(委員)。
- ・アカミミガメがいなくなると、イシガメが増えるといわれている。(委員)
- ・外来種はその種の増減や、在来種への影響など生態的な検討が必要と考えられるので、生態的特性も大切である。(委員)
- ・水辺の護岸や汚濁といった物理、化学的な環境も影響している。要因を洗い出し注意喚起する必要がある(委員)
- ・カラドジョウ、オヤニラミが繁殖しているところが増えたようである。(委員)
- ・外来のムシトリスミレ等が湿地でみられる。(委員)
- ・要注意な種の情報を集めてほしい。問題になりそうな種の情報提供をお願いする。(委員)
- ・調査結果の公表の際の位置情報の区画は、前回のブルーリストで整理した17区画が妥当かについては、検討が必要である。(委員)

### 3 議題2 その他

- ・資料4により 条例に基づき公表する移入種の選定基準等について説明した。(事務局)
- ・外来種の定着については、ワニガメのように寿命が長いものは、仮に繁殖できなかつたとしても影響は大きい。(委員)
- ・アマゾンチカガミも越冬しているとみられ、定着していると考えられる。(委員)
- ・ニジマスとブラウントラウトでは個人の放流が問題である。(委員)
- ・一般の人への外来種に対する啓発は行き届いており、外来種をテーマにした自然観察会も開かれている。(委員)